医療法人
銀門会

福祉のまちづくりへの挑戦

～甲州リハ・サポツアーセンター～

甲州リハ・サポツアーセンター
磯野　賢

甲州リハビリテーション グループ

医療法人銀門会・社会福祉法人寿ノ家・株式会社サンライフ寿

37事業 802名



理　念

心をこめ　保健・医療・福祉で地域に貢献

甲州リハビリテーショングループ
KOSHU REHABILITATION GROUP

❶医療法人 銀門会 倉庫棟
❷福祉用具貸与事務所きぼう
❸介護付有料老人ホーム サンライフ寿
❹在宅支援センター 甲州ケア・ホーム
❺甲州リハビリテーション病院
❻甲州コミュニティホール
❼寿ノ家デイサービス・ショートステイ
❽特別養護老人ホーム 寿ノ家
❾特別養護老人ホーム 寿ノ家 いさわ
❿地域密着型通所介護ことぶきクラブ

福祉のまちづくりへの当法人の想い

●「ハートフルタウン笛吹　～優しさあふれるまち～」の目標に貢献したい

－市に住む誰もが、心豊かに優しい気持ちで、安心して暮らすことのできる街を目指して、当法人としてできる「街づくり」を考えたい。

●リハビリテーション病院が全国屈指に多い地域特性を生かし リハビリ知識と経験を活用した医療と福祉の観光地域づくりをしたい

－観光と医療のベースである「福祉（ホスピタリティ）」を共有し、街全体が「福祉の心」であふれる街づくりをしたい。

●地域特性を活かしたユニバーサルツーリズムを実現したい

－患者・利用者、高齢者や障がい者、誰もが楽しめる観光の実現を考えたい。

医療法人 銀門会

石和温泉(山梨県笛吹市)

これまで宴会目的の宿泊がメイン、コロナ禍中に客層が変わり家族連れが増えた。温泉地としての転換期を迎える。

2023年から5か年計画となる「第3次笛吹市観光振興計画」の重点方針のひとつは、「医療機関との連携」

具体的には「医療・介護・福祉団体と連携し、福祉の充実とユニバーサルデザインを融合した観光地域づくりを推進する」というものであった。

これまでの活動経過

2022年9月　**吉田名誉教授との話し合いが実現**
（第3次観光振興計画策定に伴うヒヤリング）

2023年7月　笛吹市第3次観光振興計画に伴う意見交換会
（笛吹市観光担当・石和温泉旅館組合・吉田教授・佐藤理事長・院長他）

2023年9月　**温泉エッセイスト 山崎まゆみ氏 の講演会**に参加

笛吹市長との面談「福祉のまちづくり」について報告

2024年1月　**第1回　笛吹市ユニバーサルツーリズム連携研究会開催**
（笛吹市　石和温泉旅館協同組合　県立大学　笛吹市医師会　甲州リハ病院）

2024年2月　第1回　**福祉のまち基礎研修「車いす編」**開催

2024年7月　第2回　**福祉のまち基礎研修「認知症編」**開催

2025年2月～10月まで　**モニターツアー（入浴介助）を複数回実施**





医療法人
銀門会



第1回　笛吹市ユニバーサルツーリズム連携研究会



温泉エッセイスト山崎まゆみ氏の講演会



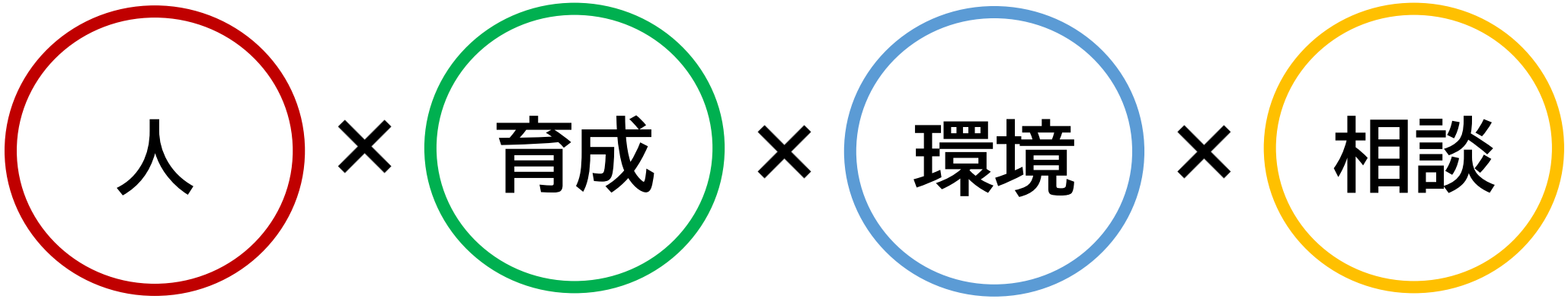
第1回　福祉のまち基礎研修「車いす編」実技



第1回　福祉のまち基礎研修「車いす編」講演

医療法人
銀門会

甲州リハ・サポツアーセンターの役割



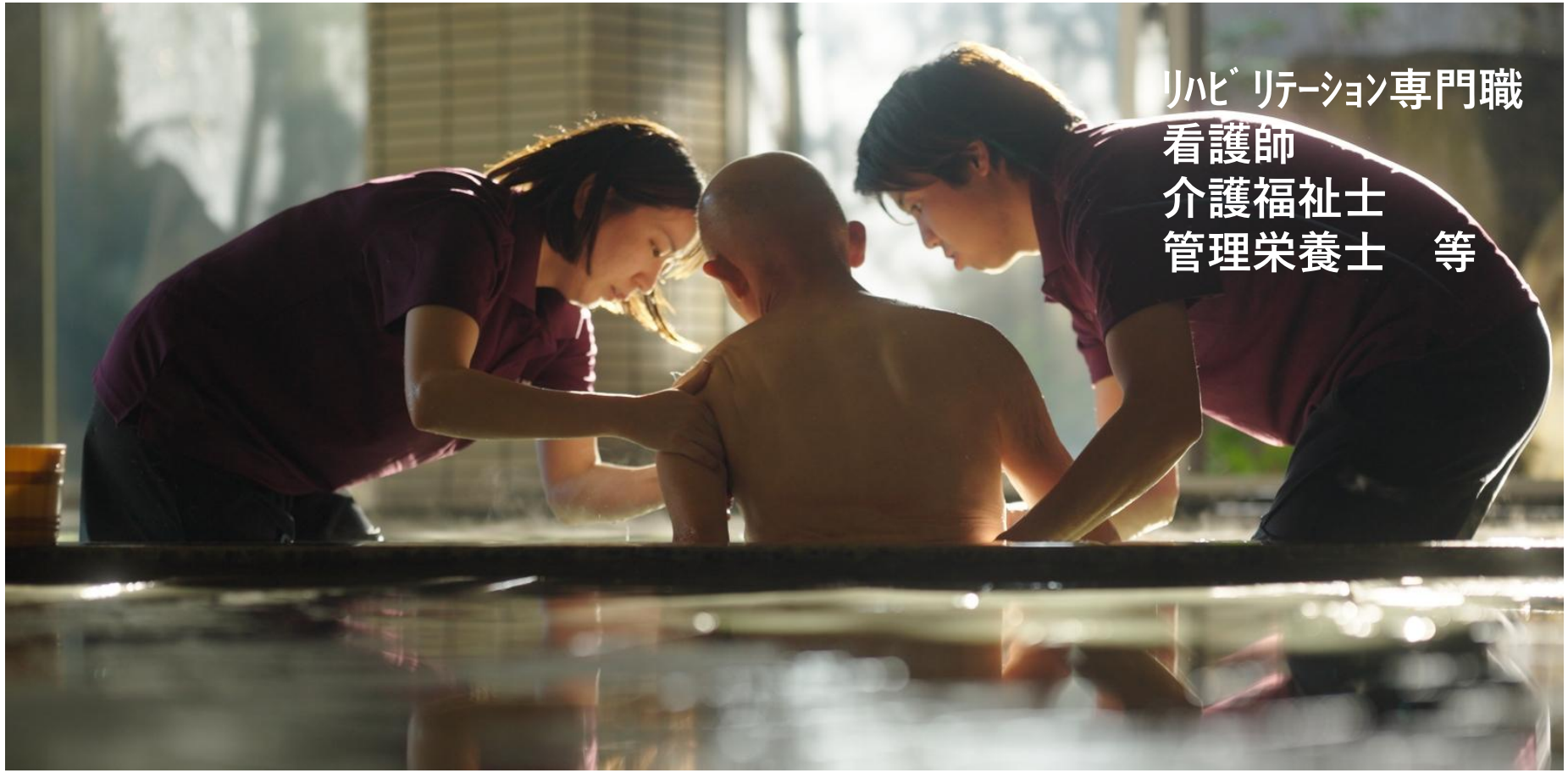
専門職の マッチング	人材育成	施設改修アドバイス 用具レンタル	観光地、宿泊先、 観光客への相談支援

甲州リハ・サポツアーセンターの役割

人

医療・介護の専門職が旅行に同行し、入浴・移動・食事などを専門的な視点からサポート

身体に不安のある方でも、安心して旅を楽しんでいただけます



医療法人 銀門会

甲州リハ・サポツアーセンターの役割

育成

観光事業者さま向けの
実践的な研修を実施

ユニバーサルツーリズムの理解を深め、人材育成を通じて地域全体のホスピタリティー向上に貢献します





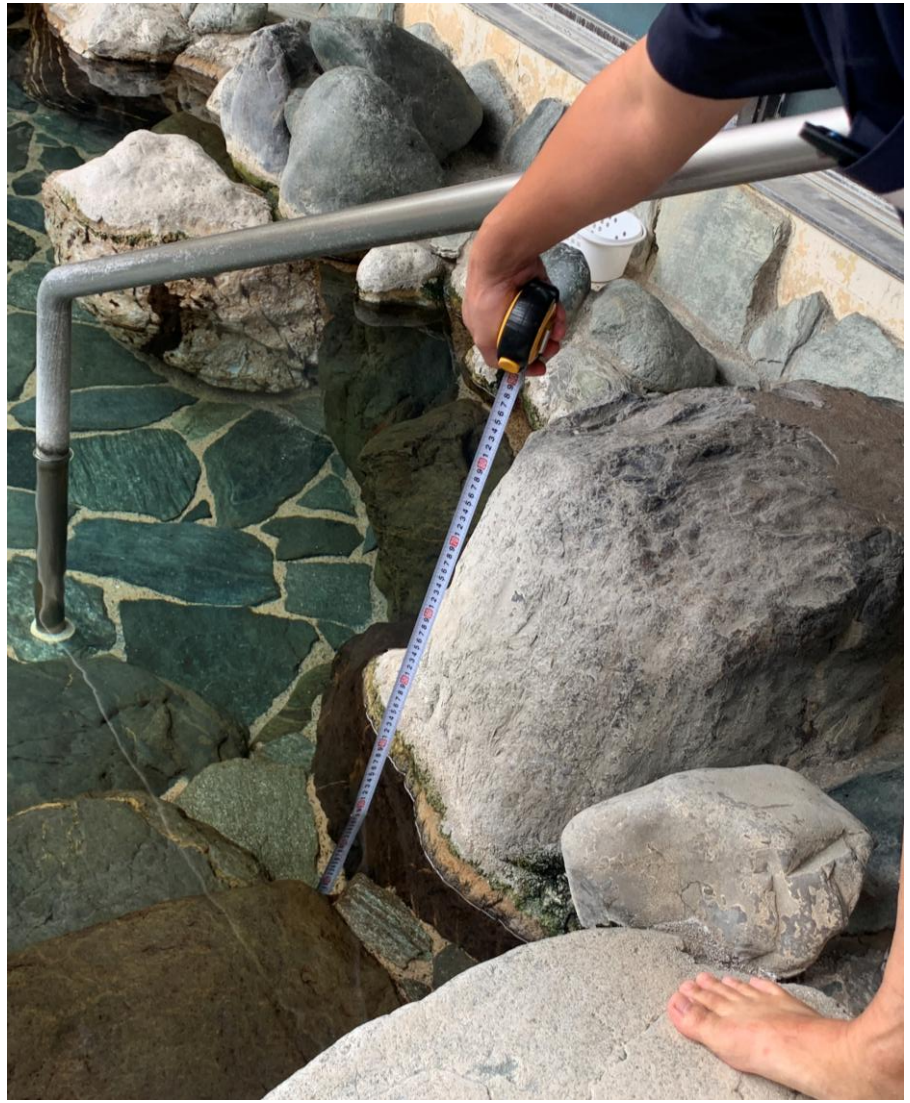
医療法人
銀門会

甲州リハ・サポツアーセンターの役割

環境

環境調査・アドバイス

プロの視点から、宿泊施設や観光施設の環境を詳細に調査し、改修や代替用具の活用などあらゆる角度からバリアパスのご提案をします







医療法人 銀門会

甲州リハ・サポツアーセンターの役割

相談

福祉用具相談・レンタル

必要な福祉用具の選定から導入までをサポート

プロの視点からご本人の身体状況に適した用具をご提案し安心・安全な環境づくりをサポートします



医療法人 銀門会

誰もが旅を楽しめる「福祉のまち」へ：2025年度 甲州リハ・サポツアーセンター 活動サマリー



リハビリテーション病院が全国居指に多い地域特性を活かし、専門的な知識と経験を観光と融合させ、街全体を「福祉（ホスピタリティ）」の心で満たすことを目指します。

福祉のまち 4つのステップ

ステップ1：旅館・ホテルへの介入

ステップ2：観光全体への波及

ステップ3：住民同士の繋がり

ステップ4：誰にでも優しい街への深化

私たちが目指すもの…

私たちは、「福祉のまちづくり」を通して、人と人が支え合い、地域の幸福寿命を延ばすことを目指しています。

「もう一度あの場所へ」
「大切な人との思い出をつくりたい」という想いを大切に、
ユニバーサルツーリズムを通じて、誰もが安心して旅を楽しめる仕組みをつくります。



2023年～：産官学連携の開始

甲州リハ・サポツアーセンター
笛吹市
石和温泉旅館協同組合
山梨県立大学
笛吹市医師会

これまでの経過と具体的なアプローチ

4回にわたるモニターツアーの実施



4回にわたるモニターツアーの実施

2025年2月～10月にかけて、歩行器や車いすを利用する高齢者を対象に実際の宿泊施設での入浴介助や移動介助を含むモニターツアーを実施し課題を抽出

福祉のまちづくり研修会の開催



福祉のまちづくり研修会の開催

観光事業者向けに「車いす編」や「認知症編」などの講義・応用研修を実施し、地域全体の受け入れ態勢を整備。

甲州リハ・サポツアーセンター 4つの役割

① 人（人材育成・当事者支援）



リハビリ専門職、看護師、介護福祉士、管理栄養士などの医療・介護の専門職が旅行に同行し、入浴・移動・食事を専門的視点からサポートします。

② 育成（観光事業者向け研修）





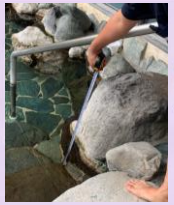
ホテル・旅館等のスタッフを対象に、実践的な介助方法やユニバーサルツーリズムの理解を深める研修を行ない、地域全体のホスピタリティーを向上させます。

③ 環境（福祉用具レンタル）



プロの視点から身体状況に適した用具（歩行器、入浴補助具など）を適合し、導入から運用までをサポートすることで、安全な滞在環境を構築します。

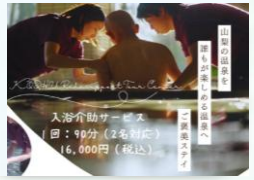
④ 相談（環境調査・アドバイス）





宿泊施設を詳細に調査し、段差解消や手すり設置などの施設改修、あるいは代替用具の活用による「バリアパス」を提案します。

2025年度末～今後の展開



入浴介助付き旅行バッケージの販売開始

2025年12月より､専門職による入浴介助サービスを組み込んだ旅行商品の販売を開始し､ユニバーサルツーリズムの事業化を本格化。



シビックプライドの醸成

住民が自分らのまちに誇りを持てる「優しさあふれるまち」を深化させていきます。

医療法人 銀門会

メディア取材　実績（TV、新聞）





時標

「幸福寿命」という言葉をご存じでしょうか。これまで医療の世界では、介護を受けずに自立して生活できる期間を示す「健康寿命」が重視されてきました。しかし健康寿命は身体的な自立度を測る指標にすぎず、その人がどれだけ幸せだと感じているかという、生きることの質までは表していません。幸福寿命とは、心が満たされ、生きがいや喜びを感じながら過ごせる期間を指す考え方です。

たとえ障害が残り、車いすが必要になっても、人は誰かと笑い合い、おいしいものを味わい、美しい景色に心を動かされることで幸福を感じられます。健康寿命が尽きた後も、幸福寿命は延ばすことができるのです。誰もがいずれ支援を必要とする時代だからこそ、健康寿命より幸福寿命を延ばすことこそ、これからの医療や地域づくりにとって本質的な目標だと私たちは考えています。

当院は、山梨県笛吹市の石和温泉に隣接する場所にあります。石和温泉は1961年の開湯以来、新婚温泉地として発展し、周辺には温泉病院も数多く設立されましたが、社員旅行の減少などにより温泉地は次第に活気を失い、温泉病院は医療制度の変遷とともにリハビリテーション病院としての役割を担うようになりました。

医療と観光はそれぞれ地域にとって大切な役割を果たしながらも、これまで両者が横断的に連携する仕組みは十分ではありませんでした。新型コロナウイルス感染症の流行で温泉地が大きな打撃を受ける中、東京オリンピックの開催も重なり、障害があっても高齢であっても誰もが安心して温泉地を楽しめるまちづくりを進めたいという思いが強まりました。それは、健康寿命を失った方々の幸福寿命を、医療者の手で支えたいという思いでもありました。

転機となったのは、山梨県立大の吉田均名誉教授からのご提案でした。「病院が地域の観光資源と結びつくことで、患者の社会参加と地域経済の双方に貢献できる」という考え方に強く共鳴し、このご提案に沿った形でサポートします。安心して温泉を楽しむことができるように、体調管理や車いす・歩行器の準備など専門的な支援から、いざというときのための「見守り」まで要望に応じて支援します。

このほかホテルや旅館、観光地の設備に合わせ、福祉用具の選定から導入までの支援をしたり、宿泊施設や観光施設の手すりなどの改修を提案したりします。認知症への理解や車いすの使い方などの研修を通して、ホスピタリティー向上に向けた人材育成も進めます。同病院の担当者は「最終的には、観光客だけでなく地元に住む住民も暮らしやすいバリアフリーの環境作りを進め、福祉の心があふれる『福祉のまち』になることを目指しています」と話しています。

観光で幸福寿命 病院が支える



佐藤　吉沖
医療法人銀門会
理事長

いい声をいただき、第20回「人に優しい地域の宿づくり賞」でリクルート「じゃらん」賞を受賞する栄誉にも恵まれました。

しかし、取り組みはまだ道半ばです。県内での認知度は十分とはいえず、旅を諦めている多くの方々に、この仕組みはまだ届いていません。旅には、幸福寿命を豊かにする力があります。おいしいものを食べ、美しい景色に触れ、家族や仲間と時間を共有する体験は、心身の活力を保ち、生きる意欲につながります。

病院が地域の観光と手をつなぐことで、旅を諦めていた方々に「また旅ができる」という希望を届け、健康寿命の先にある幸福寿命を一日でも長く延ばしていくこと。それが、法人理念である地域貢献に直結する私たちの使命であると確信しています。

さとう・よしおきさん　1965年生まれ。山梨医科大（現山梨大医学部）卒。同大病院医師を経て2002年に医療法人銀門会・甲州リハビリテーション病院医長。同院院長、甲州ケア・ホーム施設長などを歴任し、25年から現職。日本リハビリテーション病院・施設協会副会長。

2026. 7. 21

健康寿命5歳UPキャンペーン
健考新聞 シャキッと



企画・制作／山梨日日新聞社メディア企画局

きらっと！豆知識

誰もが旅を楽しめる環境に。ユニバーサルツーリズムとは？

ゆっくり温泉に浸かったり、観光地を巡ったり、その土地の美味しいものを食べたり―。心身を癒やし、心豊かに過ごす旅。しかし、年齢や障害などを理由に出掛けることに不安を抱き、旅をあきらめてしまう人も少なくありません。山梨県内では笛吹・甲州リハビリテーション病院が中心となり、石和温泉のホテルや旅館での入浴などのサポートを始め、だれもが気兼ねなく、安心して楽しめる旅の仕組みづくりを進めています。



体験ツアーで入浴を楽しむ利用者＝笛吹市内

障害の有無や年齢関係なく安心して楽しめる旅のことを「ユニバーサルツーリズム」と呼びます。観光庁が「誰もが気兼ねなく参加できる旅行」として提唱する考えで、全国的に取り組みが始まっています。県内では、2年ほど前から同病院と笛吹市、石和温泉旅館協同組合、同市医師会、県立大が研究会を立ち上げ、高齢者らによる体験ツアーなどを行いながら、普及に向けて意見交換や研修を進めています。

昨年9月には、同病院が甲州リハ・サポツアーセンターを設立。理学療法士や作業療法士、言語聴覚士、看護師ら医療・介護の専門職が旅行に同行し、ホテルや旅館での入浴や観光地への移動などを専門的な視点から支援する体制を整えています。

同センターでは、利用希望者からの依頼を受けると、当日までに施設の設備などの環境調査を行ったり、どのように過ごしたいかなど本人や家族からの希望を聞いたりして準備を整えます。当日は支援の流れなどを説明後、利用者の希望に沿った形でサポートします。安心して温泉を楽しむことができるように、体調管理や車いす・歩行器の準備など専門的な支援から、いざというときのための「見守り」まで要望に応じて支援します。

このほかホテルや旅館、観光地の設備に合わせ、福祉用具の選定から導入までの支援をしたり、宿泊施設や観光施設の手すりなどの改修を提案したりします。認知症への理解や車いすの使い方などの研修を通して、ホスピタリティー向上に向けた人材育成も進めます。同病院の担当者は「最終的には、観光客だけでなく地元に住む住民も暮らしやすいバリアフリーの環境作りを進め、福祉の心があふれる『福祉のまち』になることを目指しています」と話しています。

甲州リハ・サポツアーセンターへの相談、依頼は
電話（055-262-3121）か
メールrihasapo@krg.ne.jpで受け付けています。

次回は6月24日（水）に掲載します。

医療法人 銀門会

2026年度 甲州リハ・サポツアーセンター 活動実績報告

～観光と医療の融合が拓く幸福寿命の延伸～

外部評価・受賞（公的機関による信頼の証）

観光庁「ユニバーサルツーリズム優良事例」選出（県内初）

バリアフリー旅行相談窓口として、山梨県内で初めて観光庁の事例集に掲載されました。

観光庁「旅行会社向けマニュアル」掲載（県内初）

旅行会社が利用できる全国の相談窓口として、信頼性が公的に担保されました。

第29回「じゃらん賞」受賞（6月16日公表）

高齢者や障がい者が安心して楽しめる環境づくりへの貢献が、観光業界の主要アワードで高く評価されました。

広報実績（認知度と一体感の醸成）

山梨日日新聞への掲載（6/10・7/21）

地域住民への周知（6/10）に加え、理事長による「観光で幸福寿命」をテーマとした論考（7/21）を掲載。

院内広報誌「自分の時計」への展開

センターのビジョンを組織内へ浸透させ、医療スタッフの観光支援への参画意識を高めました。

オリジナルユニフォームの導入（20着）



現場でのプロフェッショナル・アイデンティティ確立と、非言語コミュニケーションによる安心感の提供。

観光で幸福寿命を延伸し、それを病院が支える

医療的バックグラウンドに裏打ちされた安心・安全な旅を提供し、すべての人の心躍る旅を当たり前にする社会を目指します。

事業採択・視察（次世代サービスの開発）

観光庁 補助金事業への採択

地域観光資源のコンテンツ化を加速させるプロジェクトとして、持続可能な事業モデルを推進。

伊勢志摩 (6/19-20) への視察調査

UT先進施設である「伊勢志摩バリアフリーツアーセンター」等で国内最高峰のノウハウを収集。

総括（2026年度の成果）

医療的裏付けのある観光推進の確立

第三者機関による客観的評価により、センターの社会的信頼性が盤石なものとなりました。

「スマート・エイジング・ツアー」の具現化

補助金事業を通じ、理念を具体的なサービスへと昇格させた革新的なビジネスモデルです。

ご清聴ありがとうございました

医療法人
銀門会